坂野 茂実 議員

「鬼怒川西側にも浸水」千年に一度の雨を想定

常総市の災害対策について

議員　下館河川事務所が発表した「常総西側にも浸水」との大変衝撃的な内容に対して、どのような対策・対応が考えられるか。

市民生活部長　境工事事務所に確認したところ、鬼怒川の西側を流下する茨城県管理の東仁連川、飯沼川については、危険箇所を早期かつ計画的に整備できるよう、予算確保を進めているとのことであった。

議員　早急に進めていただければと思う。次に、青少年の家の耐震化の進捗状況と今後の活用法について伺う。

教育部長　現在、宿泊施設として利用していないので、耐震化診断等は行っていない。今後、避難所や防災拠点としての活用も視野に入れて再度検討していきたい。

議員　耐震診断、改修が行われていないにもかかわらず、二次避難所に指定されているのはどういうことか。

生涯学習課長　宿泊の受け入れを中止した時点で、指定を解除すべきであったと考えている。

議員　青少年の家は、とりわけ菅原・大花羽・豊岡地区の低地の住民にとっては大変重要な施設である。現在あるものを使えるようにしてほしいというのが地元の皆さんの強い願いである。防災に対する市長の意気込みを伺いたい。

市長　常総市が防災先進都市として、国・県・近隣市町村との連携を強化し、地域と行政の絆を深めて、市全体で防災力強化に取り組んでいきたい。

飯沼川排水路溢水現場

青少年の家

一般質問 JOSOSHIGIKAIDAYORIJOSOSHIGIKAIDAYORIJOSOSHIGIKAIDAYORI 一般質問

中村 安雄 議員

常総市の明るい未来に期待する!!

新市長の行政運営について

議員　常総市の商工会会員数は、合併後376減少し、1640となっている。商工会だけの力では、到底戻すことは不可能である。行政がもっと目に見える形で、衰退した商店街、まち中を少しでも戻していただけるような体制づくりが大事だと思うが。

産業労働部長　3月に策定した常総市復興計画において、水害からの商工業事業の再開、継続に加えて新たな事業展開等への支援などを掲げている。また、本年度から県補助金を活用して商店街活力向上支援事業を実施している。

議員　圏央道インターチェンジ周辺開発について期待しているが、計画がスムーズで内容が充実したものであってほしい。国や県とのつながりをなお一層持つことが大事だと思うが。

市長　圏央道インターチェンジ開通は、市にとって千載一遇のチャンスである。私も県議時代から推進議員連盟の顧問として携わらせていただいたが、これから国・県との連携を強化し、スピードアップして、先進事例となるような事業にしていきたい。

市長　選挙のたびに前の市政を批判して、これまで積み上げてきたものを壊して、新たなものができ上がる前にまたそれを壊す。そういった政争のまちからの脱却をしなければ、常総市の発展はないと思う。

議員　市政も政治も継続性が大事である。継続するものは継続して、選挙の争いでもって市民の皆さんが迷惑をこうむるようなことは絶対にあってはならない。市長の考えを伺いたい。

掲載できなかった質問　▶昨年9月の水害からの復旧、被災者救済策と人口減少対策について